

# あしがら 農の会

通信 (旧)葉月-長月 **10** 月号

第161号 2015年 葉月二(9月14日)発行

発行 NPO 法人 あしがら農の会 <http://nounokai.com/>

代表 山室光由 090-5626-1400(携帯)

編集 石井智子 090-3502-1353 (携帯)

bombalurina@savanna.dti.ne.jp (石井)

## 地場 旬 自給

あしがら農の会はあしがら地域に様々な循環を作りたいとの思いから、地場、旬、自給を掲げて、1993年に設立されました。(2003年にNPO法人化)

地域の中の休耕田を借りて自給のための米作りから始まった会は、現在以下のような活動を行っています。

**農産物の宅配:** 会に賛同する野菜の生産者と、地域で自給の為の野菜の作り手が集まって、無農薬・無化学肥料栽培の野菜宅配を行っています。(その他、米、お茶、果実、卵、鶏肉、豚肉などもあります)

**田んぼの会:** 現在約100家族以上が、あしがら平野の13カ所で自給用の稲を育てています。

**お茶の会:** 山に戻ってしまうお茶畑を、市民で手入れできないかと始まりました。5月には参加者約100名が、各自1年分のお茶を摘み取ります。

**大豆・味噌の会:** 大豆は7月に苗作りから始まり、11月に収穫します。その大豆と、各自が田んぼの会で作っているお米で、1月には麴づくりから味噌作りを行っています。

**小麦の会:** 月1キロの小麦の自給を目指します。

その他、四季折々の行事を行っています。関心のある方はどなたでも参加できます。

## 有機な仲間たち 其の43

### 小嶋歯科医院

小嶋 敦さん

「今年は、田んぼに除草剤を使おうかと思うけど、どうする？」父から投げかけられた言葉。私の父と母は30年近く無農薬で米を作ってきました。父は84歳になります。さすがに体力的に以前のようにはいかず、母と二人での田んぼの作業は、以前の倍近い時間がかかるようになっていきます。田の草取りがやりきれないので、除草剤を使うしかないかと考えたようです。私は、田んぼにおいては、昨年1回だけ草取りを手伝っただけです。歯科の仕事と両立し、今までどおりの無農薬で行う事が可能なのだろうか？悩んでいた時に、医院の勉強会に参加しているメンバーに、「もし先生が薬を使うのであれば付き合いをやめますよ。」と言われたのです。その言葉に私はハッとしました。

私の娘が6年前、難病にかかり寝たきりになった時、「娘と関係ないシステムの上で構築された医療をあてがう」という既存の医療のシステムに違和感を覚え、娘自身を観て、手間がかかっても、周りに何と言われようと、自分たちで対応してきたこと。自分の診療所も、経営的に厳しくなることも承知で、システムや固定観念に縛られることなく、「その人」に対応できるように、保険診療という枠を取り払い、歯科医療という枠も取り払おうとしてきたこと。でも、自分達が食べるものを作る農という部分が違うスタンスでよい、ということにはできないと思いました。そして今、休診日の木曜日と日曜日は、ほぼ毎日畑や田んぼにいます。父、母のサポートの下、医院のスタッフや勉強会のメンバー、患者さんなどに手伝ってもらいながらやってきましたが、やはり手が足りませんでした。課題はたくさんあります。

でも、学んだこともたくさんあります。今の医療は、症状を治すということを目的とした人間基準の物の捉え方だけで展開されていきます。この視点だけで対応できるものは

全体のほんの少ししかありません。なぜなら、ヒトは自然の中の一部であり、天然の一部だからです。この視点に立った時、今の医療に何か違うと感じていることや、難病という今の医療が対処できないというものへの対応が見えてくると思うのです。その土地がその土地らしくあるようお世話をするだけ。その人がその人らしくいられることの協力をするだけで、「なおす」ではなく「結果、なおった」になる視点もあるのだと思います。良いも悪いもなく、その人がその人らしく、いろんなものや事柄が、それらしくあることがバランスを生み、そして、それらが存在させてもらえることにつながるのではないかと思います。

そして、私の中に一つの構想が浮かんでいます。その人がその人らしくいられるように、日常の中から自分らしさを探せる場を提供する必要性を感じるのです。診療という場は特殊な場で、日常を捨ててはいけません。もっと幅広く、日常のその人の中から可能性を探るため、診療も日常生活の中に落とし込んでいけたらよいと思うのです。皆で協力し合いながら、そんな場が作れたらよいと思います。

「歯は、自分が本来の自分と違っていることを教えてくれる、優秀なセンサー。症状は自分からのサイン。歯の症状をきっかけに自分らしさを取り戻していく。」そんな現在の小嶋歯科医院という場が、もっと医療という枠を超えていくきっかけを、農の体験が教えてくれました。まずは、場所探しからスタートです。

小嶋歯科医院 小嶋 敦

神奈川県中郡二宮町一色 3021

電話: 0463-72-3982 Fax: 0463-72-3982

Email: [contact@kojimashika.jp](mailto:contact@kojimashika.jp)



## お茶の会紅茶づくり

高橋愛香

私はお茶の会の参加が昨年からのので、今年で二年目の紅茶づくり。8月15日から二日間かけて終了しました。昨年は個人的にスケジュールの都合上二日目の作業に参加できなかった為、二年目とはいえとても新鮮な気持ちで二日間の作業を楽しみました。先に皆さん気になる今年の紅茶の風味のご報告から。今年の農の会の手づくり紅茶は、紅茶らしさの中に足柄茶の主張がしっかり鼻の奥を駆けぬけていく、昨年とはまた一味違う美味しい紅茶に仕上がりました。

農の会通信を手にとられている方はご存知の方も多いかもかもしれませんが、紅茶が完成する迄の工程は、摘み取り後、萎凋、揉捻、発酵、乾燥、の4工程。この発酵の工程を半発酵にしたものが烏龍茶だそうで、個人的には発酵の段階をいろいろ試行錯誤して風味の違いがどのようにでてくるのが時間があればいつか実験してみたいなと思っています。

今年の紅茶向けの茶葉の摘み取りは、昨年よりも三週程度遅らせたおかげか、摘みごろの大きな葉が大勢あり、摘み取りが楽なように思い取り掛かりました。が、思いの外獲れ高上がらず。午後を少し跨ぎながら各自摘み取りを終えました。7月半ばから続いた晴天の日々を茶の木は水分を減らしながら生きながらえ、葉の水分量が少なかったのかもかもしれません。昨年は摘みごろの葉が揃わず苦戦した記憶がありましたが、今年は摘めども摘めどもなかなか重量が増えていかない。手摘みの大変さを思い知らされる茶摘みですが、私は、集中して摘みとりしていくことで脳内から何らかの快感物質が分泌されていくような心地よい感覚がなんともいえず大好きです。ちなみにこれを別名「オチャツミーズハイ」と勝手に呼んでいます。

摘み取りを終えた茶葉は、各自持ち帰り風通しの良い所で一晚、葉を萎れさせます。以前視察へ伺った、静岡で有機栽培紅茶をつくられている丸子の紅茶、村松氏曰く、紅茶の香りの良し悪しはこの作業が重要だとのこと。（と、いう大事な事実には私は一晚寝た後に気づきました。）そして、二日目。16日の午前に一晩萎凋させた茶葉を再度持ち寄り、次の発酵の工程に欠かせない、葉が持つ酸化酵素を引き出す為の揉捻。お茶の会ではこの工程をミンサーを使い、すり潰し刻む、状態にします。刻まれてミンサーの排出口からぞくぞくと押し出される茶葉は空気と触れ合いみるみるうちに茶色く変化していきます。その茶葉を大きなシートにくるみ、ビニールハウスへ次々と運び、発酵のためまたしばらく静置し、その後製茶工場へ乾燥作業をお願いし、今年の美味しい手づくり足柄紅茶を手にすることができました。一部小分けにシーリングして限られた個数ですが販売用の確保があるので、機会があれば是非味わってみたいと思います。

.....  
(茶畑作業報告) 8月29日 (刈払機2名、手除草4名)、  
30日 手除草、蕎麦糟まき (軽トラ3台分弱)・9名  
計15名参加

舟原田んぼ⑧ 小川 家

## 個人田んぼとグループ田んぼをやってみて

今年の春から、個人田んぼとして7年間やってきた坊所田んぼをやめ、舟原のグループ田んぼに仲間入りさせてもらった。坊所田んぼは、横に流れる川のせせらぎ、竹藪などの風景に惹かれ小田原に移住したぐらい素敵な場所だった。でも2反の田んぼが1枚になっているから作業はしやすいものの、終りの見えない草取りは気が遠くなる。作業スケジュールは自分の都合で決められる所が動きやすいがグループに比べ負担が多い。でもその分田んぼへの愛着とか込める気持ちも強くなる。泣いても笑っても責任は全て自分になる。

グループ田んぼでは、作業時間がぐ〜んと減った=田んぼへ行く回数も減ったのでこの時期田んぼの事を考える事が少なくなった。(毎日水管理をして下さる方には感謝しています)作業もみんなですぐに終わってしまうので気軽に関わりやすくなった。職種も年齢も色々な人が関わっているのでその出会いも楽しい!これから田んぼで一番嬉しい収穫の時期だ。米の収量が気になるところだが、個人田んぼは1年間食べていくには絶対困らない、3・11の時も米があるという安心感があった。グループ田んぼはさてどうだろう?稲穂がゆれる田んぼへ行くのが楽しみだ。

と言う事で、それぞれに良さがあり、大変さがあるのだ。どちらを選ぶか、選べるかは個々の生活スタイルで違って来るだろうから、その時できる事をしたらよいのでは。いずれにして田んぼに関わる人が増えると自給率も上がって暮らしが豊かになるのではないだろうか。 小川 夕

## 農のデータコラム・10

東海道線で最初の駅弁が売られたのはどこの駅でしょうか?答えは1888年の国府津駅で、東華軒の創業者が作った駅弁で、竹の皮に包んだ塩にぎりめし二個に香物と梅干がついたものだったとの事。それから15年後の1903年に、特選小鮎押寿司、1907年には、鯛めしが発売され、現在もまだ小田原駅等で売られているのは驚きますね〜。その当時の東海道線は、新橋から御殿場線を通り神戸まで機関車が黒煙を吐いて走っていました。その頃、箱根越えを控えた急勾配前の山北駅では、補機の連結などの為、特急を含むすべての列車が停車し、そこでは、酒匂川で取れた天然の2匹の鮎と、当時寿司米としては日本一と言われた足柄米を使った鮎寿司という幻の駅弁があったそうなのである。御殿場線にSLが走る姿、見てみたいものです!そんな風景に興味がありましたら、ぜひ文化堂の『御殿場線物語』の写真をみて見て下さい!  
黒澤 太



## 「農業がやりたい! のんびり田舎暮らしが

したい」と思い小田原に来て10年が経ちました。10年前に比べると周りの景色もだいぶ変わったように思います。10年前は畑に行く時は家の裏の田んぼの中を通り、富士山を見ながら初冠雪だ! や、雪がとけ夏を感じたりと毎日の変化を楽しんでいました。しかし、数年前田んぼにはあつという間に家、家が建ち間からかうじに見える富士山となってしまいました。そして人がいなかった道にも通勤、通学の人人人。その間をゆっくりと車を走らせます。

私は人の畑や田んぼを見るのが好きで、よく自分の畑と比べます。やっぱり今年は天候が悪いから野菜の調子が悪いよとか。しかし、あるときから耕作されなくなり数ヵ月後には家を建てる準備が始まります。この辺りは畑や田んぼがなくなりどんどん家が建っています。こんなに建てて住む人がいるのかと疑問に思っています。私の畑の周りもだいぶ家が建ってきました。山々も遠くに感じ鳥や虫の音よりもガンガン、トントントンという工事の音が気になります。10年前の景色が懐かしい。

夏の夜の田んぼ近くを歩くと少しひんやりして気持ちが良いです。畑の近所の人も昔家の裏が田んぼだった頃夏でも風が吹くと涼しい風が家に入ってきたと話していたことを思い出しました。ふと見ると田んぼの端に立て看板。残念ながらまた家が建つらしいのです。なんだか悲しいです。

吉田裕香

## 麻糸産み後継者養成講座

2012年の夏の終わりに、栃木県の大麻博物館で、大麻のストールに出会い、その心地よさに心を奪われました。その後、大麻博物館の館長に麻糸産みの技術を教わり、身につけました。

大麻! ? 麻葉? コワイと思われる方も多いと思いますが、実は大麻草は縄文時代から、日本人の暮らしとともにありました。また、神道の神事においては、罪穢れを祓うものとして利用されている神聖な植物です。

衣服に、縄に、漁網に、家の建材に、食糧にと、日用品にも余すことなく使われ、生活になくてはならないものでした。

現在、歴史の流れにより、日本で麻糸を産業レベルで産める人は10名以下と言われるほど。日本古来の伝統を守りたい、伝えていきたいと思い、国府津で7月から麻糸産みの講座を始めました。かつて女性から女性の、手から手へと伝えられてきた麻糸産みの技と心を未来へつないでいきませんか?

糸作りでは大麻草の茎を使います。剥いだ皮から不純物を取り除き、輝く糸が出来上がります。糸の強度は、機織の縦糸にも使えるくらい強く、魚釣りもできるくらいです。大麻の繊維に触れていると、ゆったりとした時間の流れを感じられることでしょう。

興味を持たれた方はご連絡くださいね。

青山めぐみ (山ちゃん田んぼのスポット団員)

uminchu.ito@icloud.com

\*「麻糸産み」とは、麻糸をつなぐこと。本来は「績(う)む」

## ～シカ害情報提供のお願い～

箱根外輪山東部では10年ほど前からシカが住み着き、食料豊富で個体数が増加し、農林業被害がとて増えています。対策を行政や民間捕獲者に呼びかけるために、農作物食害、シカ目撃、解剖できる捕獲個体など、情報提供をお願いします。被害情報があると対策につながります。

小田原山盛の会 川島範子 (かわしま) まで。

☎ 090-9349-7014 Fax 0465-36-4815

Mail: norako.k@nifty.com

http://blogs.yahoo.co.jp/norako33530

## 小田原山盛の会 箱根山シカ害調査 (27年度神奈川県もみず助成事業)

「小田原山盛の会」では、今年度県の助成を受け、古林賢恒氏(元東京農工大森林生物保全学研究室)の指導により箱根外輪山東部のシカ過食圧地調査を実施しております。月に2回実施していますので、興味のある方はご連絡ください。(次回10月4日(日)・22日(木)予定)

8月28日には外輪山東部の檜山林道と火打石岳にて、シカ害地の視察・見学会を開催しました。箱根でのシカ害の視察会は初めてという事もあり、行政及び関係機関(環境省箱根自然環境事務所・県環境保全課・県博物館・小田原市・箱根町・湯河原町・調査機関)15名を含む31名が参加されました。また、9月10日に久野坊所で102kgもある大きなみずシカが捕獲され、県地球博にて解剖の結果、胃の中からはキウイの皮が検出され、農業被害を裏づけることができました。

箱根はまだシカ密度は低く、被害は軽度とみなされ、一般の関心も低い状態となっております。しかし山の稜線は丹沢並みの植生劣化域が点から面へと広がりはじめています。川島

## こんにちは。足柄みなもと農園の佐藤で

す。今年から夢田んぼにて、手取り足取り気合いを入れられ教えてもらいながらの田んぼ活動を始めました。この記事が通信に載る頃には稲刈りをしている予定です。...などと書いていますが、当初は田んぼそのものの構造や仕組みも全く知らずのスタートでしたから、戸惑うこともありました。心掛けたのは「今年は生徒、来年は主」「今までの夢田んぼの作業方法を体感する」「稲という植物を知る」という三つくらいでしょうか。とはいえ正直、僕があれこれ考えることもなく、教えてくれている北口さんと、今年から一緒にやっている阿部さんの人間力で、稲もすくすくと育ったようです。そして来年からは当初の予定通り、僕のほうで夢田んぼを継いでいこうと思っております。たった1年やっただけで引き継げるのか?といったような不安は正直言って...ありません(笑)基本僕は能天気なのですが、北口さん、阿部さんがそう思わせてくれました。そして何より夢田んぼの稲達がそう思わせてくれたのです。本当にありがたいです。そして恵まれています。書いていて気持ち次第、心持ち次第だと感じています。それもこれも今年の夢田んぼのメンバーとの出会い、育った稲達のおかげです。皆さんの豊作も祈りつつ、感謝の気持ちを実感しています。(佐藤友明)



## Junkan 農園

田中 早保

家がある開成町は、水路が張り巡らされています。年2回の町内清掃の日は水が止まり、水路掃除やたまった砂を掘り上げる姿が見られます。我が家の庭にも2本の水路があり、蛭が見えたり、めだかがいたり、カニがわんさかいたりとその豊かさの恩恵を受けています。その水路沿いの道、最近穴が空いたり、へこんだり。どうしたのか？隣のおじさんが体調を崩していることが思い当たりました。おじさんは水路が止まると、たまった砂を道に山と積んで、水たまりを見れば、すかさず埋め、穴があけば、すかさず砂でふさいでいました。が、気づけば、その山はなくなっていたのです。もう、1年くらい調子が悪いんだと寂しく思いつつ、先日の大雨で水路が止まった時、チャンスとばかりに掘りましたよ。これがなかなか大変！水をたっぷり含んだ砂は重いし、石があって思うようにスコップがささなくて。大きな山には出来なかったけどこれからあの道は、我が家の担当かな？水路が止まるたび、砂の山を積み上げていくと思いました。国土の保全っていうと果てしない感じがするけれど、田畑の畦の草刈りや、山の斜面の草刈りは、日常的に農家がやっていること。請負耕作の田んぼの畦は人によっては除草剤もかけてしまうのが現実、農家が減って効率重視の農業が進むことは、国土の保全からは、遠い気がした水路掃除でした。

## 第9回小田原映画祭 上映決定 「日本と原発」

～これ1本で原発を取り巻くすべての問題を提起します～

6月に知人に紹介され、「日本と原発」の映画を何の予備知識もなく観に行きました。夜にも関わらず、会場は大盛況で、夜は出掛けられない年配の方々も多く来られていて、その関心の高さに驚きました。

この映画の監督は、河合弘之という弁護士です。有名企業を取り巻く多くの裁判で勝ち続けた辣腕弁護士と呼ばれた河合さんでしたが、原発訴訟では何年経っても、どんなに方法論を工夫しても負け続けた。そして、2011年3月11日起きたのです。『裁判は、たった一人でも正義をかけて戦える安全弁のようなもの。だから、僕は一人でも戦う。でもそれだけではみんなに伝わらない。一人でも多くの人に真実を伝えるには、やはり、映画しかない。』と、自費で作ったドキュメンタリー映画です。

パイプイスでの130分はきついかと思いましたが、映画が始まると瞬きもせず見入っていました。そしてこれは私のように「原発」についてよく知らないという方にぜひ見てほしい、真実を知り、そして自分の頭で考えてほしいと思えました。

全国150か所以上で上映され、話題となっているこの映画は、第9回小田原映画祭で上映が決まりました。見たかったのに見逃してしまった方、中高生などの若い方にも、ぜひ見ていただきたい映画です。

日時 10月2日(金) 18時～20時15分(130分)

場所 小田原コロナシネマワールド

\*映画終了後、河合弘之監督によるトークショーがあります

料金 大人1000円 中高生500円

小田原映画祭実行委員 木下和子

## 無農薬野菜に感謝！

はじめまして。平塚市議会議員の江口友子と申します。毎月通信を楽しく読んでいます。

私は35歳の時に乳癌になりました。今は抗癌剤治療をやめて、食事療法などに取り組んでいます。

世の中には実にたくさんの食事療法があります。その中で私は少食と簡単な運動からなる「西式健康法」というものをチョイスしました。なぜか。少食がモットーなので金がかからないからです。始めてみたらとても効果がありました。

西式で食べるものは主に3種類です。青泥と生玄米粉、豆腐です。青泥とは、スロージューサーですり潰した野菜のことで、毎日どんぶり一杯食べます。5種類くらいの葉野菜と人参を使います。リンゴを入れたりもします。味が濃くて栄養素が詰まった無農薬野菜を使うと、美味しい青泥ができます。

生玄米粉というのは、洗わずに玄米を生のまま珈琲ミルにかけて粉状にするもので、ちょうど、きな粉みたいにしていただきます。これは洗わないし熱もかけないので無農薬玄米が不可欠です。ほんのり甘く美味です。

青泥や生玄米粉にはすばらしいデトックス効果があります。大量の便が出るようになりました。一ヶ月ほどで顔の吹き出物がなくなり倦怠感も減りましたし、血液検査はいつも合格点です。今こうして元気なのは新鮮な無農薬野菜のおかげと言えます。(江口友子)

## ～お知らせ～

○葉月満月 9/28 ●長月新月 10/13 ○満月 10/27  
9/23[秋分]・10/8[寒露]・10/24[霜降] (土用 10/21 - 11/7)

10月度定例会 \*担当: 山ちゃん田んぼ(山室)

10月10日(土) 18:30～ @けやき 第3会議室

◎お茶の会: 10月25日(日) 9:00～ 草取り・整枝

総会・自給祭 12月13日(日) @曾我みのり館

## 小田原有機の里づくり協議会より

★有機農業視察研修 10月7日(水) 8時集合

視察先: 藤沢市(相原農場)、大和市(なないろ畑)

集合場所: 曾我みのり館、参加費: 2500円(お昼代含む)

【申込・問】石井智子 090-3502-1353

★畑の生き物調査 10月10日(日) 9時～16時

講師: 青木淳一 横浜国立大学名誉教授・土壌動物学者

場所: ジョイファーム小田原 集出荷センター

(小田原市曾我岸531・駐車場有) \*参加費無料

【申込・問】ジョイファーム小田原 0465-42-5571 (ほそぼ)

◇小田原まちなか朝市 @平井書店駐車場

9月27日(日)・10月11日(日)・25日(日)

第2・第4日曜日 朝7時半から9時半まで

【通信が置いてあるお店】ポタジェラ/カフェラッサム/IN NATURAL/バックシュトゥーベ IMAYA/えれんな ごっそ/Capace/がらんどろ/かぶえ・えりむ/和カフェ ChaCha/井上種苗/ハルノキ/越文/café sympha-38-/ a ランドピーンズビレッジ/サキ補習教室/NONCAFE/Cafe ひみつきち/チャルカフェ/mame 元 café/アロマー-ジュ/ペーカリーアスラン/fumoto